

令和 5 年 7 月 18 日
愛 媛 大 学

クラウドファンディングの返礼品に 「昆虫を含む飼料で養殖した真鯛」を提供 ～愛媛大学と県内企業の産学連携で誕生した「えひめ鯛」～

愛媛大学大学院農学研究科の三浦猛教授らは、養殖魚の飼料に必須の魚粉の価格高騰に対応するため、2022年7月から、魚粉に替わる動物性タンパク質である昆虫を用いた真鯛のサステナブル養殖技術の研究開発に産学連携で取り組んでいます。

このたび、連携企業である秀長水産株式会社（愛媛県宇和島市）が、本研究を支援するためにクラウドファンディングを行い、返礼品として世界で初めて昆虫（ミールワーム）を含む飼料で養殖した真鯛「えひめ鯛（えひめだい）」を提供することになりました。

なお、本研究は、太陽石油株式会社からの寄附金により、大学院農学研究科に設置しました寄附講座「昆虫の飼料利用科学」の活動の一環として実施されたものです。

つきましては、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

記

【クラウドファンディング概要】

産学連携で誕生した「えひめ鯛」！昆虫を用いた真鯛のサステナブル養殖への挑戦

開始日：2023年7月20日（木）

終了日：2023年9月30日（土）

URL : https://camp-fire.jp/projects/678076/preview?token=2nv0b2d6&utm_campaign=cp_po_share_c_msg_projects_preview



プロジェクトページ

※送付資料2枚（本紙を含む）

本件に関する問い合わせ先
愛媛大学大学院農学研究科
教授 三浦 猛
TEL：089-946-3684
Mail：miura.takeshi.mx@ehime-u.ac.jp

養殖魚の成長に必要なタンパク質養殖魚を大きく育てるためにはタンパク質が必要です。魚粉は、タンパク質が豊富で、養殖用の飼料原料として広く利用されてきました。しかしながら、魚粉は主に天然の魚から生産されるため、養殖が増えれば増えるほど、天然魚の乱獲が進むという矛盾を抱えています。近年は、海洋環境の変化や過剰漁獲により天然魚の資源量が減少し、魚粉の価格高騰が問題となっています。残念ながら、日本の魚粉自給率は半分に満たず、その多くを輸入に依存しています。世界的に魚粉の需要が高まる中で、魚粉の安定的な入手が困難となっている現状があります。

愛媛大学寄附講座「昆虫の飼料利用科学」では、太陽石油株式会社や秀長水産株式会社ら県内企業と連携し、2022年より宇和島市の養殖場にて、甲虫の一種であるミールワームを利用した養殖用飼料の実証試験に取り組んで参りました。ミールワームは、草食系の昆虫で、農業残渣を餌として効率的に育つ、サステナブルな動物性タンパク資源です。2023年3月には、実証試験で生産されたマダイの試食会を開催いたしました。

愛媛大学（略称：「えひめだい」）との産学連携で生まれた、このマダイは「えひめ鯛（えひめだい）」と名付けられ、本学の生協食堂や、大手企業の社食で限定的に提供されてきました。

この度、宇和島市の水産企業である秀長水産株式会社が、愛媛大学との継続した共同研究への支援を求めてクラウドファンディング（Campfire）に挑戦します。返礼品には、今回の実証試験で生産された「世界初の真鯛」が含まれており、これが一般の方々が昆虫で育てた養殖魚を味わっていただく最初の機会となります。このクラウドファンディングの成功や、今後の研究開発の進展のためにも、是非とも取材をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

